

「ワーカーズコレクティブ」県内200団体活動 共同出資で働く場作り

働く人たちが出資金を持ち寄り、全員が経営に携わりながら働く「ワーカーズコレクティブ」という形態が、県内で広がっている。子育てや親の介護をしている主婦、退職後のサラリーマン……。人生に応じた多様な働き方を表現している。

業種は20以上に

福井市神奈川区の六角鍋商店街。路地の一角にある「仕出し弁当店」ミス・キャロット。六角鍋「ランチ」は1990年、主婦たちが出資金を出し合って作った企業組合だ。野菜たっぷりの手作りのおかずが人気で、近くの神奈川大学や企業、商店や個人宅などに、毎日300食近くを配達している。

アルバイトを含めて20、0代の10人がローテーションを組む。午前8時から、白いマスクに帽子、エプロン姿の女性たちができばきとフライを揚げ、ご飯を盛り、焼き魚と野菜サラダを添える。



昼前は弁当箱への詰め込み作業で忙しただくなる。福井市神奈川区の「ミス・キャロット」六角鍋「ランチ」

夕を彩りよく弁当箱に詰め、正午過ぎ、配達が始まる。一段落するとみんなでおかすで昼ご飯。ここからは残りのメンバーで夜食用の弁当の準備を始める。

事情に応じ勤務調整

福田芳子さん(図)が仲間と店を立ち上げたのは、子育てが一段落した43歳のとき。「上司も部下もなく、みんなが働く仲間」で経営者でもある。話し合いを重ねる中で、それぞれの事情を理解して働きやすい場所を作ってきた」と言っ

月1回、メンバーが集まり「経営者会議」を開く。子どもの卒業式や入学式、自分の通院や親の介護など、それぞれの予定を告げて、勤務体制を調整する。3人がいる橋井里さん(左)と阿部麻子さん(右)は「みんなお互いに助け合っているの、子育ての時間を持ちながら働き続けられる」と話す。

時給も、年間の事業計画を立てる中でメンバーで話し合って決める。今年度は11550円。勤続年数に関係なく、全員同じ金額だ。店には「働きがい」とうたい、縁々な人が集う。

アルバイトの男性(28)は、ここで働き始めたことで社会とのつながりが生まれたと感じている。中学時代には不登校になり、高校を卒業しても家から出られなかった。20歳になった時、この店を紹介されて働くようになった。今春からは配達も任せられ、苦手だった距離を一人で話すことも楽しくなってきた。「ここは働きやすさを教えてくれた、ミスキャロット。自分の夢を追求したい」と言う。ここで10年間働き続ける白開症の男性もいる。

主婦の視点から出発

神奈川ワーカーズコレクティブ連合会(福井市中央区)によると、県内では22年に初めて働く人が共同で出資する「ワーカーズコレクティブ」の形態が誕生

子育てや親の介護をしながら働きたい女性たちを中心に設立が相次ぎ、現在では企業組合や合同会社、NPO法人など約200団体、約5千人が活動している。仕出し弁当や家事介助、テイクアウトの運営、学童保育、子育て支援など業種は20以上に及ぶ。連合会の河村尚子事務理事は「暮らしの中で、近くにこんなサービスがあったら便利だな、という主婦の視点から出発している。自分たちが仕事を担い起こし

て、それが暮らしの役に立つ。地産地消の働き方でも解説する。女性だけでなく、定年退職後の男性たちの参加も増えている。2011年度の活動実績は、県内169団体の総事業高は約1億3千万円だった。「経営者の視点を持って一人ひとりが働いているので、事業としてきちんと成り立っている。それが仕事やりのいいところだ。好循環を生み出している」と河村さんは話している。